校友会会報 No.22

酪農学園大学同窓会校友会

〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582 同窓生会館内

2016年1月1日 発行

TEL (011) 386-1196 FAX (011) 386-5987 e-mail rg-kouyu@rakuno.ac.jp HP http://kouyukai.rakuno.org/

新年を迎えて

酪農学園大学同窓会校友会 会長 小山 久一

はじめに

酪農学園大学同窓会校友会（以下、校友会）の会員および準会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。無事に新しい年を迎えることができたこととお喜び申し上げます。また、日頃から校友会の活動に対しご理解とご支援をいただき心から感謝申し上げます。

まず、校友会の役員の一部が2015年度の理事・代議員会において改選されたことをご報告いたします。これまで8年間に渡り校友会をリードしてこられた野村武会長が任期満了に伴う改選であります。後任の会長は小山（酪農学科9期）が、副会長は上村篤正氏（食品科学科1期）と新たに加わった志田和仁氏（地域環境学科1期）の2名となり、さらに事務局長も加藤清雄氏（獣医学科5期）に交代いたしました。現在、改選された役員が中心となって2015年度計画に基づき校友会事業を展開しておりますが、多くの会員のご協力により成果を上げつつあります。誠に有難く感謝いたしております。

校友会の活動の一元化について

従来校友会は、学科ごとの同窓会をまとめた緩やかな組織で、共通するところを一本化し、お互いの連携を取りながら、それぞれの学科同窓会が活動しやすいように考えられつくられた組織であります。会計もそれぞれの同窓会が管理する方式で活動してきました。しかし、大学の改革に伴い学群・学類に名称と組織が変更されたこと、廃止された学科が出てきたこと等により、従来の事業運営が難しくなってきました。また、新たに導入された在学生の準会員制度に伴い、学科同窓会の枠を超え、酪農学園大学全体による同窓会活動が必要になってきました。そこで2014年度から校友会活動の実質的統合がスタートし、一部学科同窓会の従来の活動を維持しながらも、同窓生に対する事業活動の一元化が進んでおります。とくに、この一元化で最も難しいといわれていたのは、各学科同窓会保有の資産の校友会への移管であります。学科同窓会には苦労しながら継続してきた活動の長い歴史があります。それをどれだけ確保・踏襲できるかがポイントとなります。道半ばで時間はかかっておりますが、この資産の移管は着実に進んでおり、学科同窓会にとって負担となっていた複雑な経理・会計を含む事務処理の強化と透明性が図られるようになってきております。

準会員制度へのご理解を

この制度は2014年度からスタートしています。新入生は入学とともに準会員となりますので、酪農学園大学には校友会という同窓会のあることを理解してもらえます。以前は卒業の時に初めて同窓会の事を知る学生が多く、なかなか同窓会活動を理解してもらえませんでしたが、準会員制度により入学後から同窓会活動に参加できますし、支援を受けることができます。これによって在学中から校友会を身近に感じ、卒業後は全国の同窓生との連携が深まっていくことが期待されます。

準会員に対する支援については、校友会理事･代議員会で検討してきましたが、今年は前年と同様に入学記念として校友会オリジナルの革製「パスケース」を寄贈することと、6月に4日間「準会員応援企画メニュー」として学園生協の協力を得て、計1,000食を学生に提供しました。パスケースは学生証入れに利用されていることが多く、教室で出席管理システムのセンサーにかざしているのをよく見かけます。また、準会員応援企画メニューは丼物と酪農牛乳で１食500円の内300円を校友会が補助して学生には200円の負担で食事ができるという方法をとりました。これには予定の食数を上回るほど長い行列ができ、大変好評でした。今後は予算的には苦しいところがあるのですが、「校友会ドンブリ」として継続する努力をしていきたいと思っております。

終わりに

さて、校友会の会員には様々な意見を持った人がおり、厳しい意見を耳にすることもあります。しかし私は、校友会の目的が会則にありますように「会員相互の親睦交流」が大原則であります。たとえ立場や考え方が違っていたとしても野幌の地で三愛精神の教育を受けた絆を大切にして、違いを受け入れ、あるがままの現実を肯定し「自分たちの正義」という旗を振り回さずに、全体を見て事態をより善く変えていくことができればと思っております。今年も校友会の「善い年」にしたいと願い、活動の善き結果を目指して努力し続けたいと思います。そのためにも会員皆様のご支援とご理解を頂き、そして今後ともご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

会員の皆様におかれましても、喜びと希望そして決意を以て迎えられた新年が「より善き年」になりますよう心から願いまして、年頭のご挨拶といたします。

■循環農学類「学類の近況」

循環農学類長　髙橋　圭二

循環農学類では、2014年度フィールド教育研究センター（FEDREC）における酪農生産ステーション、肉畜生産ステーション（元野幌）、作物生産ステーションの施設整備が完了し、各施設が本格稼働を始めました。酪農生産ステーションではとわの森三愛高等学校の生徒が管理するつなぎ飼い牛舎での乳牛飼養が始まりました。

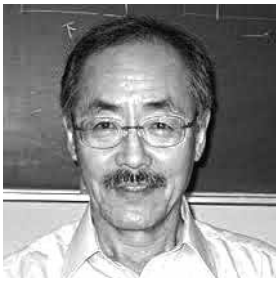
肉畜生産ステーションでは肉牛牛舎の増設により分娩房、子牛育成スペースが整備されました。また、豚、鶏、綿羊等の中小家畜の実習施設も家畜管理センターから元野幌に移設・新築され、本格的に中小家畜の実習が始まりました。作物生産ステーションでは、ガラス温室４棟が新設され、実習棟、ビニールハウス等が完成し、農学コースの中心的実習施設となりました。

こうした実習施設の整備充実を受け、循環農学類では酪農、畜産、農学の各分野においてより実践的な教育の充実に努めていく所存です。

作物生産ステーションのハウス群

退職教員からのメッセージ

教員の異動関係では、2015年３月には長年にわたり酪農学園大学の教育、研究に貢献されました、干場信司教授、菊田治典教授が定年を迎えられました。お二人からのメッセージです。



2015年３月末で、教員として定年を迎えました。いつも申しておりますが、酪農大に憧れてお世話になることができ、20年間勤めさせていただきました。それまで道立・国立の研究機関や国立大学にも勤めましたが、間違いなく酪農大が一番素晴らしい職場でした。それは、素晴らしい建学の理念のもとに、素晴らしい学生と卒業生そして同僚の教職員がいたからです。心から感謝申し上げます。この素晴らしさを続けるために、学長としても努力をしていたつもりでしたが、７月に解任となりました。とても不本意で、また残念です。酪農大の教育の目的は、「上司の言うことなら何でも受け入れる」人間を育てることではありません。現場で働く人とそれを支える食、現場の自然・動物を大切にする真摯な人間を育てることが目的のはずです。そのための組織として、これからも発展することを望んでいます。

（干場　信司）

「今人にあらず」は有名な方の言葉ですが、近況の報告を求められたので同様の心境ですが筆を取っています。

今年の春、退職したら如何するのですかと聴かれ「鬼や憑き物の研究」などと冗談にしていたものです。それが浦臼に入植したキリスト教徒の足跡、メナシの戦い、樺戸集治監や空知集治監、これらの現場に臨む機会を得て、蜂起したアイヌの人たち、収監されていた自由民権運動家、故郷を離れたキリスト教徒、中に、何かに追われた人々の姿を垣間見ました。

65歳にして大型オートバイを乗り始め、白い雲が沸き上がるのを見たら、いそいそと引き出して、開拓当時の文献探索や伝え話を聞いて回っている毎日で、極めて楽しいのですが、北海道には、農民の救済に立ち上がった田中正造、呼応した黒澤酉蔵など先達の思いが、色濃く残り、まだ、ドクンドクンと息づいていると感じるに至って居ります。

（菊田　治典）

■食と健康学類「学類の近況」

食と健康学類長　竹田　保之

2011年度より始まった学群・学類体制も2014年度で完成年度となり、2015年３月にはその第１期卒業生、157名が社会へと巣立ちました。また、2015年３月末に行われた管理栄養士国家試験においても受験生全員が合格いたしました。

本年度の入学者は学類全体で189名となり、2015年４月１日時点で総勢750名の学生が在学しております。本年度の入学生より一部変更した新しいカリキュラムの元で授業が行われております。入学時の学類オリエンテーションではボウリング大会のあと、趣向を凝らした歓迎会で盛り上がりました（写真1、2）。

2015年３月をもって、これまで学類の教育、研究にご尽力いただいたマーケティング研究室の加藤敏文先生、理科教育研究室の山田大隆先生、生物教育学研究室の干場敏博先生、給食経営管理学研究室の荻原（金高）有里先生ならびに嘱託助手の佐々木民江先生がご退職されました。加藤敏文先生は本年度、特任教授として専門科目を受け持っていただき、学類の教育・研究活動にご協力いただいております。山田大隆先生と干場敏博先生も特任教授として勤務されており、主に教職関連科目の授業を通して本学学生の教育にご協力いただいております。荻原先生は埼玉県にある十文字学園女子大学に勤務されております。

本年度より新たに勤務された先生は、小林道（とおる）先生（給食経営管理学研究室）、杉村留美子先生（栄養指導論研究室）、須賀朋子先生（教育発達心理学研究室）ならびに嘱託助手の宮崎早花（さやか）先生の４名おられます。小林先生と杉村先生は管理栄養士コース、須賀先生は主に教職コースの専任教員としてお忙しい毎日を過ごしております。また、宮崎先生はご出産された後、２年ぶりの再登板となりました。

2016年３月にはご定年で眞船直樹先生と清野康二先生がご退職となられます。３月には管理栄養士の国家試験があることから、昨年８月に「管理栄養士の未来を語る会」と題し、盛大に眞船先生の慰労会が行われました（写真3、4）。

食品科学科、食品流通学科ならびに食と健康学類の同窓生の皆様におかれましてはご健康に留意され、ますますのご活躍されることをお祈りしております。

今後とも食と健康学類の教育、研究に格段のご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

写真１

写真２

写真３

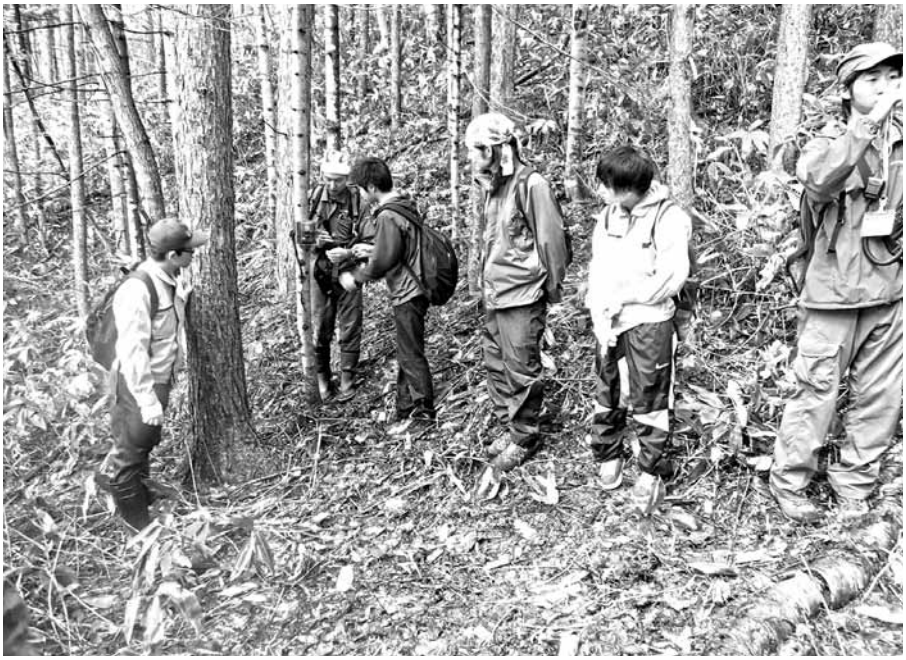
写真４

■環境共生学類「学類の近況」

環境共生学類長　吉田　剛司

私のような若手（自分で若手と思う45歳）をよくぞ学類長に選任したと思います。とにかく通常の枠に収まらず、常に挑戦するのが環境共生学類の魅力です。学類学生は２年生から実習をスタートさせ３年生からは野生動物学コースと生命環境学コースに所属して必修科目や多くの実習を履修します。本学類の実習は行動的であり、机上での作業ではありません。北海道の地域振興さらには地球環境の保全にも関与できる人材を育成すべく、札幌市、占冠村、洞爺湖町、西興部村といった道内での地域学術総合協定を締結する市町村で実習を続けています。これら市町村の支援なしで実習は成り立ちません。

洞爺湖で自然環境実習中の集合写真



札幌市近郊林で自然環境実習中のヒグマ出没調査

環境共生学類の１期生は、無事に2015年３月に卒業して様々な分野で活躍しています。環境の専門家として民間企業のみならず、道や市町村の行政職として、NPOなどの団体職員としてさらには酪農学研究科に進学して本学の大学院で学ぶ学生も多いのが特徴です。また本学でも比較的に若くて活発な教員が多いのが環境共生学類です。５月より新たに環境植物学研究室を開設して、松山周平講師が赴任されました。学類教育においての念願の植物分野の研究室です。当然ながら学生の興味も非常に高く、これから積極的に環境共生学類を盛り上げてくれると信じています。そして７月にはアジア初開催となる国際野生動物管理学術会議を札幌で開催し、本学類が中心となって運営しました。世界47か国から1,300名を超える参加者が集った大規模な国際学術会議となり、ここで酪農学園大学の野生動物研究のレベルの高さを世界にアピールできました。

とにかく“現場”や“フィールド”を常に意識している学類です。現場での活動数は他の学類に負けないでしょう。学類長に就任して、初めて自分も含めて学類教員が道内各地に相当数の学生を引率して調査研究していることに気づきました。そんな自分も浜中町、別海町、標津町を駆け回り、先ほど大学に戻ってきたところです。そして明日は洞爺湖町です。講義と実習の合間に、週末も祝日も走り回っている教員が多いですが、気づけば多くが40代。今後学類は次世代と共に酪農学園大学の基軸となるべくさらなる発展を目指しますので、皆様の多大なるご支援をよろしくお願いいたします。

■獣医学類「学類の近況」

獣医学類長　中出　哲也

同窓生の皆様、お元気でご活躍の事とお慶び申し上げます。さて2015年３月で動物病院長を辞し、４月から新たに獣医学類長に任命されました中出哲也です。同窓生の皆様には日頃から本学獣医学類へのご協力、ご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

2015年は獣医学科創立51年目の年であり、新たに100周年への一歩を歩みだしました。教員の移動から報告致します。2015年３月には人獣共通感染症教育ユニットの上野弘志准教授が定年退職されました。また動物生殖学教育ユニットの片桐成二教授が北海道大学に転出されました。上野弘志先生は引き続き獣医学類で嘱託准教授として勤務して頂いております。新しい教員の採用としては伴侶動物外科学Ⅰ教育ユニットに井坂光宏准教授が着任されました。井坂先生は本学30期生で酪農学園大学附属動物病院研修医、北海道大学医学部大学院を経てアメリカ留学後、横浜の開業病院で勤務され昨年４月から大学に戻ってきました。また人獣共通感染症教育ユニットには内田玲麻（れお）助教（男性）が着任されました。内田先生は本学42期生で長崎大学大学院に進学し、修了後直ぐに赴任して頂きました。また伴侶動物内科学Ⅱ教育ユニットの打出毅教授がご家族の事情で残念ながら東京農工大学へ転出しました。現在後任人事を取り進めているところです。更に2016年３月には林正信教授、平賀武夫教授が定年退職される予定になっています。

獣医学類の喫緊の課題は、差し迫った獣医学共用試験への対応です。獣医学教育の充実・改善の取組において、社会の要請に応えうる実践的な獣医師の養成のためには臨床・公衆衛生・衛生分野の「参加型実習」の実施が必要です。全国獣医学関係大学代表者協議会では、参加型実習を行う学生の質の確保と保証のための方策について獣医学共用試験調査委員会を設けて調査検討し、医学・歯学・薬学の手法を参考として「獣医学共用試験」を2016年度に開始します。

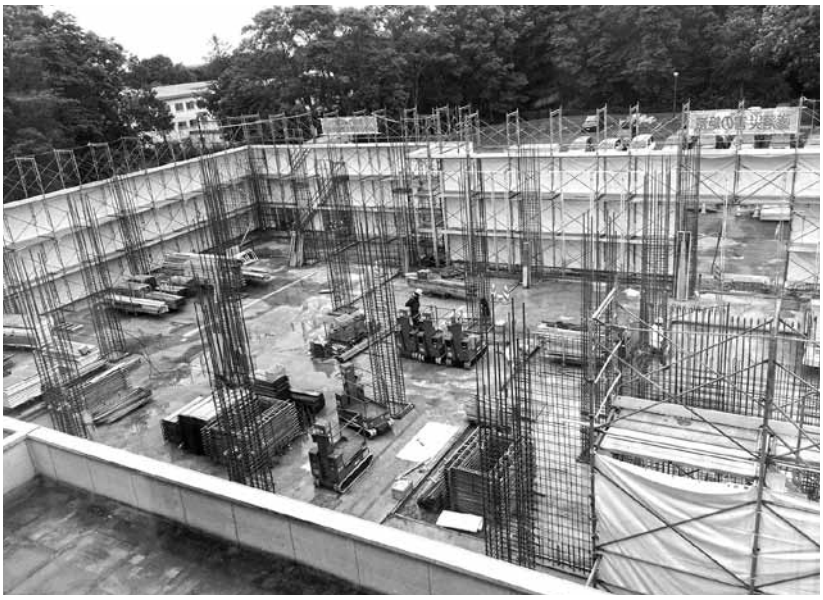
獣医師の資格がない学生が臨床実習で動物（患畜）に接する場合には、必要不可欠な知識・技能・態度が備わっていることを動物所有者（飼育者）に示し、診療に参加することに同意してもらうことが必要です。また、学生の知識・技能・態度のレベルを全国的にも一定水準以上に保つことも必要です。獣医系大学が実習に臨む学生に必要な最小限の知識・技能・態度の到達レベルを公平かつ厳正に評価し、その質を動物所有者（飼育者）と社会に保証するために獣医学共用試験を実施します。

全国16獣医系大学が共通で実施する獣医学共用試験は、コンピュータを用いて「知識および問題解決能力を評価する客観試験（vetCBT: veterinary Computer-based Testing）」と「獣医臨床における診察技能・態度を客観的に評価する（vetOSCE: veterinary Objective Structured Clinical Examination）」により構成されています。vetCBTに合格した学生のみ参加型臨床実習を受けることができます。

本学ではこれらのvetCBTおよびvetOSCEに対応するため、現在動物病院の東（裏）側に（仮称）臨床獣医学教育研究センター増築工事（３階建て、増築面積2,141㎡）を７月に起工し、2016年２月に竣工予定です。また動物病院の改修も併せて行い、2016年８月頃に動物医療センターとしてリニューアルオープンする予定になっております。2016年８月には動物医療センターのリニューアルオープンに是非ご参加頂きますようお願い申し上げます。

また、国内獣医系大学の国・公立大学では国際認証の獣医学教育改革を視座に入れた積極的な施策を共同学部や共同課程（北海道大学と帯広畜産大学、鹿児島大学と山口大学など）の設置により、手厚い国の補助金を財源にして進められております。一方、財政的に恵まれない私学の獣医学教育の改革は、更に多くの負担が強いられる厳しい状況におかれております。そこで大変恐縮ですが、今後発行されます獣医学科同窓会会報誌「三愛」にあります「募金募集のお願い」の項をご覧頂き、酪農学園大学獣医学教育充実支援事業にご理解とご賛同を賜り、力強いご援助を頂ければ幸甚でございます。

最後になりますが、同窓生皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。



増築中の（仮称）臨床獣医学教育研究センター（2015年８月）

■獣医保健看護学類「１期生卒業、新カリキュラムスタート」

獣医保健看護学類長　北澤多喜雄

日頃、獣医保健看護学類の教育と研究にご理解、ご協力頂きましてありがとうございます。獣医保健看護学類の近況についてお知らせします。

2011年に開設された獣医保健看護学類は、2015年３月に初めて卒業生を輩出しました。１期生の卒業に当たっては、４年制大学の卒業論文の指導と就職活動とを新しく経験することができました。卒業論文は選択科目であることから最初はどれくらいの学生が履修してくれるのか不安でしたが、58名の学生のうち48名が履修、共同研究もあり合計40篇の卒業論文が提出され、2015年１月21日は第１回の卒業論文発表会を行うことができました。発表会は盛況で多くの質問が出る活気のある１日でした。その後、２月28日が締め切りで履修者全員が論文を提出しています。論文は、図書館に配架されていますので興味のある方はご覧ください。卒業論文の中には獣医学会や内科学アカデミーで発表された内容など学術的意義が高いものもありました。

就職についても学生の自主的な活動と教員の適切な指導により、最終的には他大学進学希望者を除いたほぼ全員が就職することができました。就職先は、小動物病院の動物看護師が４割強、あと民間企業（動物関連、製薬関連、小売り・サービス業、農業関係団体）が３割、残りを大動物医療関連（ノーサイ、ウマ関係）、大学病院看護師（酪農学園大学３名、北里大学１名）、公務員などが占めています。就職先の多様性は同じような動物看護師養成教育を行っている専門学校との差別化につながると考えていますので、今後さらに就職先を開拓していくことが必要になります。また、１期生の卒業に合わせて獣医学研究科に大学院修士課程を開設しました。現在４名の学生が修士課程に所属し日夜研究に励んでおります（行動学１名、栄養学１名、理学療法学２名）。このような若い学生の中から、今後、日本の動物看護学を担う人材が出ることを楽しみしています。

学類の新しい構成メンバーとして北里大学から嶋本良則教授が昨年４月に着任しました。小動物の臨床経験が豊富で、研究もしっかりとやられる先生ですので今後、学類の発展に大きく貢献してくれるものと期待しています。また、カリキュラムの変更に伴い、今後４年生での専修コースがなくなっていくことから、専修コースに基づいた４つの教育ユニット（行動学、栄養学、理学療法学、看護学）を、基礎・応用看護学分野と臨床看護学分野に再編し、それぞれの先生が自分の専門分野の研究名を名乗ることにしました。

以上述べてきたように、獣医保健看護学類は５年目を迎え１年生では新カリキュラムがスタートし創世期から成熟・変革期に突入したと言えます。教員、学生ともに昨日より今日、今日より明日とより良い学類になるように、皆様の助けをお借りして前を向き進んでいきたいと考えています。ご支援のほど宜しくお願いします。

2015 年４月在学生有志によるネコの人文字

2015 年３月学類１期生卒業式記念写真

2015年度酪農学園大学同窓会校友会役員

名誉会長

石田　貞夫

酪農学科１期

名誉会長

野村　　武

獣医学科１期

顧　問

大澤　宏一

農業経済学科１期

顧　問

北村　直人

獣医学科４期

会　長

小山　久一

酪農学科９期

副会長

上村　篤正

食品科学科１期

副会長

志田　和仁

地域環境学科１期

事務局長

加藤　清雄

獣医学科５期

【理　事】

佐藤　元昭（酪農学科20期）
髙橋　俊彦（獣医学科11期）
山崎　耕太（環境マネジメント学科１期）
浦川　利幸（農業経済学科12期）
上野　敬司（食品科学科10期）
小笹　仁美（生命環境学科３期）
南　　繁（獣医学科６期）
浦上　　渉（食品流通学科１期）

【代議員】

小阪　進一（酪農学科８期）
加藤　　浩（農業経済学科20期）
小岩　政照（獣医学科８期）
後藤　正光（獣医学科23期）
西田　　智（食品流通学科１期）
志田　理恵（地域環境学科１期）
納口　里菜（環境マネジメント学科３期）
野　　英二（酪農学科11期）
品川　晴香（農業経済学科45期）
廣田　和久（獣医学科16期）
岩﨑　智仁（食品科学科５期）
松本　美哉（食品流通学科２期）
島田　恵子（経営環境学科１期）
石井　光平（生命環境学科３期）
岡本　英竜（酪農学科24期）
高橋　　健（獣医学科２期）
植田　弘美（獣医学科19期）
栃原　孝志（食品科学科８期）
荒船　光哉（食と健康学類１期）
永田　真弓（経営環境学科３期）

【監　事】

野上　良邦（獣医学科８期）
下田　尊久（酪農学科12期）

■役員挨拶■

酪農学園大学同窓会校友会副会長　志田　和仁

環境システム学部地域環境学科１期生の志田和仁です。本年度、副会長に就任いたしました。若輩者の私が校友会の運営に携わる機会をいただき感謝いたします。会員の皆様にはご迷惑をお掛けすることもあるとは思いますが、校友会発展のため微力ながらお役に立てればと考えておりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

2015年度第24回ホームカミングデー開催報告

９月12日（土）朝方までの雨で天候が心配される中、全国各地から卒業生と元教職員、現教職員約100人で第24回ホームカミングデーが開催されました。

今回は在学生の参加もあり卒業生との交流が見られ活気あるホームカミングデーとなりました。

まず初めに今回で４回目となる本学関連食材によるバーベキューランチを午前11時より同窓生会館前にて和やかに楽しみました。食材は本学フィールド教育センター肉畜生産ステーション（元野幌農場）で肥育された日本短角種の肉や本学乳製品製造学実習室の牛乳やアイスクリーム、野村武名誉会長差し入れのトウモロコシなど盛りだくさんでした。今回は講演講師の「山のハム工房ゴーバル」代表 石原潔氏より２種類のソーセージ（バジル･チョリソー）をご提供いただきボリュームもあり大変美味しく大好評でした。

バーベキューランチは（公財）酪農学園後援会 永田享常務理事の進行で開会し、同窓会 小山久一会長から歓迎の挨拶、大学 竹花一成学長、酪農学園 福山常務理事、酪農学園貴農同志会 井上昌保会長からそれぞれ挨拶をいただきました。

会場では学生サークル「ブルーグラス研究所」による心地よい演奏の中バーベキューが開始され、大学生協 野崎知司専務、大学部創期・短大１期卒 草地道一氏（85歳）、講師の石原氏（獣医学科８期卒）、酪農学園後援会 細田治憲理事からそれぞれ挨拶をいただきました。

草地氏は現同窓生会館のレンガの煙突を指差して約60数年前自分でレンガ積みしたことを話していただきました。その後、堂地修教授から当日提供いただきました食材に使われている牛肉、日本短角種の飼育管理等について話をいただきました。

最後は仙北富志和学園長の「また来年お会いしましょう」という挨拶で野外バーベキューランチは閉会しました。

同窓会 小山久一会長

仙北富志和学園長

会場を黒澤記念講堂に移し午後１時30分より記念礼拝（物故者追悼）、記念講演が加藤清雄校友会事務局長の進行で開催されました。

記念礼拝の司式は榮忍とわの森三愛高等学校校長によって行われ、讃美歌を合唱し、聖書「ルカによる福音書15章17～19節」の朗読後、前回のホームカミングデーから１年間の物故者への追悼が行われ祈りを捧げました。榮校長は「我に返る時」をテーマに奨励を行いました。

最後に全員で酪農讃歌を合唱して記念礼拝は終わりました。

ブルーグラス研究所

とわの森三愛高等学校 榮忍校長

続きまして記念講演に先立ち、麻田信二理事長より学園を取り巻く状況報告と講師への謝意の挨拶が述べられました。

今回は岐阜県恵那市にて山のハム工房ゴーバル代表である獣医学科８期生の石原潔氏を講師としてお招きし「ハム屋の創造物語―獣医解剖学教室からNOSAI、そしてガンジスへ―」をテーマにキリスト教に根差した今日までのさまざまな経歴や出会いについて紹介いただきました。

山のハム工房ゴーバルを営むまでの歴史をわかりやすく説明していただきました。

石原氏の生き方において独立学園や本学の建学の精神がバックボーンとなっていることがわかる大変興味深い講演内容でした。

麻田信二理事長

講師の石原潔氏

次回第25回ホームカミングデーの詳細は決まり次第同窓会ホームページにて掲載いたします。

この機会に同期会や部活ＯＢ・ＯＧ会、ゼミ同門会などを開き、多くの方に野外バーベキューランチにて恩師や友人との交流、記念礼拝・講演に参加していただきたいと思います。

酪農学園同窓会では10人以上集まる同期会などの開催に対して助成金の補助を行っています。

詳しくは同窓会ホームページhttp://rakuno.org/をご覧ください。

学生応援企画メニュー実施

2015年度同窓会校友会の事業企画として実施されました準会員（学生）応援企画メニューのご紹介をいたします。

酪農学園大学生協の協力により６月中４回にわたり日替わり丼（健土健民牛乳付き）を200円で提供させていただきました。

６月２日かき揚げ天丼、10日ミートソースハンバーグ丼、18日チキンカツ玉子丼、26日ハヤシソースメンチカツ丼、いずれも健土健民牛乳付きです。

午前10時から午後２時の間、各日限定250食、４日間で1,000食をご用意させていただきましたが全てお昼までには完売するという盛況振りでした。

アンケートを実施させていただきましたが、ボリュームや価格ともに満足いただけたようで来年も実施してほしいという要望が多数でした。

男女の販売数差はほぼなく４回全て食べに来てくれた学生もいました。

１人暮らしや下宿生からも低価格なので助かるとの意見もありました。

次年度も酪農学園大学同窓会校友会事業として生協に協力をいただきぜひ実施していきたいと思います。

酪農学園同窓会校友会会員の皆様

酪農学園大学　学長　竹花　一成

ご健勝のことと存じます。この度、学長に就任しました竹花一成です。何卒ご指導ご協力の程よろしくお願いいたします。

私は昭和53年（1978年３月）酪農学部獣医学科の卒業で、昨年６月までは同窓会校友会事務局長をしておりました。野村武前校友会会長と共に校友会の一元化に伴う準会員制度の導入（学生が入学から準会員となる）、各学科同窓会資産の一元化など、会員の皆様のご理解、ご協力と単位同窓会会長と事務局長に助けられ、将来のために校友会を一歩前進させることができました。また、酪農学園大学の同窓会の状況をきちんと勉強させていただく機会にもなりました。この間の経験は今の私にとって大事な宝物になっており、同窓生の思いはただ一つ「大学を思う気持ち」であることもわかりました。

ご存じのとおり昨年８月末に職を引き受け今に至っております。当然のことながら私の役目は準会員（学生）が安心して学べる環境、そして皆が誇りを持てる大学をしっかりと作ることと思い進んでいます。

本学は、黒澤酉蔵翁が「今日最も必要なのは一にも二にも人である。産業の興隆も、文化の発揚も、国家の発展も結局、人の問題であり、人を育てる仕事ほど尊い仕事は他にないと思う」、「私の人生で酪農学園ほど苦労したものはない。“なせば成る”の信念だけでした」と回想しているとおり、強い信念を持って困難を乗り越えて開学に至った歴史があります。酉蔵翁が提唱したキリスト教の教えを柱とした建学の理念「三愛精神」に徹した人間教育と、教育方針である「健土健民」に基づく「実学教育」を行い、専門性の高い人材の育成を目指してきました。この教えを確実に会得して地域の中核となる学生を育てることが私の使命です。そのためにもより多くの教員が現場に出て、悩みを聞き、自分の技術を生かしてほしいと考えています。真の教育は経験からしか出てきませんし、真実を教えることも難しいのではないかと思います。

2011年度に行われた大学の改組は、建学の理念を本学独自の教育展開と実学教育を柱とした教職員の意識改革でした。今は社会から一定の評価を受けていますが私立大学である以上、今以上の学生の確保が急務で遅れが許されない状態です。そのために自発的な教育・研究を主体とした構造改革を推し進め、皆が一丸となりそれぞれの立場で時代の要請に対応した「三愛精神の継承者」を持続的に輩出し、次世代への引き継ぎを推進することです。教職員が酪農学園大学の「建学の理念」と教育方針をいま一度反すうし、原点に回帰することが重要です。

2033年に迎える創立100年に向けて本学をさらに発展させるため、私は本学の存在価値を改めて点検するとともに、先手を打った改革を進めるつもりです。学園すべての教職員とともに、酉蔵翁の思いや信念を反すうし、心を一つにしてこれらに取り組んでいきたいと考えています。

どうか、教職員、卒業生、関係の皆様のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

第14回全日本ホルスタイン共進会北海道大会にて（写真提供：酪農ジャーナル編集部）

挨　拶

酪農学園大学同窓会校友会　事務局長　**加藤　清雄**

本年度も気象変動によると思われる巨大台風や未曾有の集中豪雨による河川決壊などが発生し、各地で多くの方が被災されております。本学の同窓会は全国津々浦々に会員が分布していることが特徴ですが、各地で被災されているという情報が入っております。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

さて、本年度より校友会の事務局長を仰せつかりました獣医学科５期生（1972年卒）の加藤清雄です。2014年３月本学園を退職するに当たり、これまでの生活とは一変した全く新しいもう一つの人生を生きようと、これまで関わってきた同窓会の役職にもけじめをつけ学園を離れたつもりでしたが、多くの教え子のいる同窓会から離れることは困難なようで、事務局長として微力ながら協力させていただくこととなりました。

学科単位の同窓会を校友会に一本化して２年目、会員同士の親睦や学園の発展に貢献する新たな校友会としての組織の充実、発展が求められる極めて大事な時期であると認識しております。組織が小さければ小さいほど構成員の帰属意識は高く、組織が大きくなればなるほど帰属意識は薄れていくものです。一本化された校友会への帰属意識が高く保たれるような魅力ある活動を行うとともに、より帰属意識の高い単位同窓会をはじめ、ゼミの同門会やクラブ活動のOB・OG会などの活動を推進し、ご協力を仰がなければならないと考えております。

微力ながら会長・副会長を支え、校友会の発展に努力する所存です。どうぞ、ご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

物故者　2014年４月から2015年３月

ここに謹んでご冥福をお祈り致します。

伊藤　悠一	（酪農・２期）	東　昭雄	（農経・５期）
本間　一晟	（酪農・３期）	酒向　宏	（農経・13期）
尾崎　義憲	（酪農・６期）	西海　豊顕	（農経・13期）
川島　宏	（酪農・11期）	吉田　清人	（獣医・10期）
加賀谷　亨	（酪農・16期）	星　司	（獣医・11期）
河合　恒夫	（酪農・17期）	木村　恵子	（獣医・17期）
倉田　浩二	（酪農・20期）	佐藤　未成	（経環・６期）
永峰　樹	（酪農・22期）		敬称省略

2015年度酪農学園大学同窓会校友会理事・代議員会報告

５月22日（金）新さっぽろアークシティホテルにて2015年度酪農学園大学同窓会校友会理事・代議員会が開催された。

理事10名、代議員18名が出席した（委任状33名）。議長は竹花一成事務局長が務めた。

議案第１号：2014年度事業報告、収支決算、監査報告が行われ承認された。監事からの指摘事項に関し説明がされ、今後指摘を解消する方向で進めることが報告された。第２号：2015年度事業計画（案）、収支予算（案）が資料に基づき提案され承認された。ただし検討事案を本年度中に理事会を開き決定することとした。第３号：会則の改正について提案され承認された。第４号：役員の改選について会則改正に基づき提案され承認された。第５号：校友会会長、副会長、校友会事務局長選出について提案され承認された。

そのほか代議員より名誉会長に石田貞夫氏、野村武氏、顧問には大澤宏一氏、北村直人氏にお願いしたいと提案され承認された。

報告①各区分事務局長が資料に基づき報告された。②各学科同窓会資産移管・預け状況について報告された。

会計報告　2014年度予算、決算および2015年度予算について下記のとおり了承された

収　入　（単位:円）

項　目	2015年度予算	2014年度決算	2014年度予算	備　考
前年度繰越金	23,781,778	4,426,956	4,426,956	
新同窓会費	23,940,000	23,910,000	24,060,000	30,000×798名
同窓会費	11,895,000	10,500,000	10,695,000	15,000×793名
預金利息	5,000	4,851	5,000	
助成金	10,000	10,000	10,000	
ホームカミングデー分担金	300,000	175,000	300,000	学園・関係団体より
雑収入	100,000	14,844,175	100,000	一元化による資産移管
合　計	60,031,778	53,870,982	39,596,956	

支　出

項　目	2015年度予算	2014年度決算	2014年度予算	備　考
校友会事業費	10,790,000	6,464,685	8,165,000	
入学式関係費	1,600,000	1,484,359	1,700,000	パスケース、案内文書
卒業式関係費	7,340,000	4,074,919	4,815,000	酪農讃歌CD、記念写真 学位記ホルダー他
会報関係費	500,000	403,704	400,000	印刷、郵送代他
在学生関係費	500,000	130,000	500,000	白樺祭支援他
同窓生関係費	300,000	10,000	100,000	本印刷代
ホームカミングデー関係費	400,000	241,753	500,000	食品･備品、謝礼金他
シリーズ小冊子	150,000	119,950	150,000	印刷、郵送代他
支部活動助成費	5,774,250	4,285,979	5,614,250	通信･活動費助成他
校友会運営費	3,590,200	3,298,540	3,625,200	
会議費	200,000	125,118	200,000	理事･代議員会他
負担金	640,200	640,200	640,200	酪農学園同窓会負担金
人件費	2,200,000	2,167,136	2,200,000	事務局長手当含む
通信費	50,000	36,653	50,000	電話代他
旅費交通費	80,000	66,600	80,000	監事、理事他
慶弔費	20,000	0	20,000	弔電
事務用品費	300,000	199,217	300,000	コピー、トナー代他
消耗品費	50,000	37,372	35,000	フロア･マットリース代他
雑費	50,000	26,244	100,000	振込手数料他
小　計	20,154,450	14,049,204	17,404,450	
予備費	23,917,328	23,781,778	6,152,506	
準備金	15,960,000	16,040,000	16,040,000	準会員積立金へ
合　計	60,031,778	53,870,982	39,596,956	

準会員積立金（卒業記念事業費）	
2014年度	16,040,000円